



# AKANE NEWS

大塚あかね後援会

羽村市議会議員 **大塚 あかね** 活動報告

平成9年4月25日第3種郵便物認可



2016年新春号  
民主党プレス民主編集部  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町1-11-1  
<http://www.dpj.or.jp>

## 謹賀新年



2016年が始まりました！

今年も大塚あかねは皆さまのお声をしっかりと受け止め、ひとりひとりの立場にたって地域の問題に取り組んで参ります。

大塚あかねは2016年も全力で働いてまいります。

皆さまからのお励まし、ご指導、今年も宜しくお願いいたします。

## お知らせ

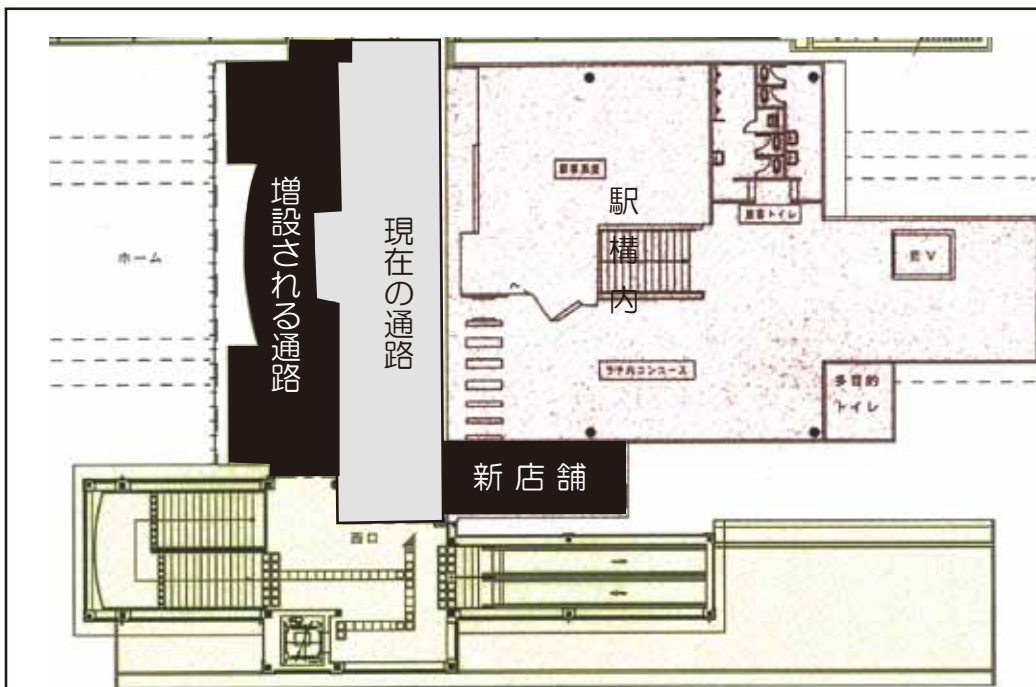
「羽村駅自由通路の拡幅工事」が始まります。

現在のキオスク店舗を改札内に移転し、通路を拡幅する工事と、それに伴う東口階段の改修工事が平成28年度から平成30年度にかけて行われることが決まりました。

現在、JRの財産となっている通路を羽村市が無償で譲り受け、5メートル拡幅し、9メートルの通路となります。(現在は4メートル)それに伴い、東口階段を小作側に約3m移動します。

高齢者の皆さま、障がいのある方、ベビーカーを押している子育て中の皆さんも安心して通路を通ることができるようになります。

平成28年はキオスクの移転工事から開始される予定となっています。



羽村駅計画平面図



羽村市議会議員(3期目)  
厚生委員会委員長  
瑞穂斎場組合議会議長

♥ プロフィール ♥  
学習院大学法学部政治学科卒業

NTT(株)勤務  
営業、広報、秘書を務める

2007年  
羽村市議会議員初当選

## 活動の記録①



10月8日  
傾聴ボランティア講習を修了  
現在、傾聴ボランティア活動  
に取り組んでいます。



10月13日  
連合西多摩政策制度要求  
働く仲間の声を鈴木西多摩  
議長と共に並木市長に提出

## 1 2月議会 一般質問ダイジェスト

### 1、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けていくための「在宅医療・介護連携」の取り組みについて

国は2025年を目途に、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供する「在宅医療・介護連携推進事業」を示しました。国は平成30年4月には在宅医療・介護連携推進事業の取り組みを各自治体が主体的に取り組むことを求めています。

#### ・羽村市の現状は・・・

**大塚** 現在、羽村市の「在宅医療・介護連携」はどのような状況にあるのでしょうか。

**市長** 現状では、ケアマネージャーが医療機関受診の際に同行したり、病院で実施される退院時調整会議へ参加しています。

#### ・東京都でも各市区町村への支援のための事業を用意しています。その事業の活用や東京都との連携はどうなっているのでしょうか。

**大塚** 「区市町村・地域医師会在宅療養担当者連絡会」へは参加していますか？  
そこで得た成果をどの様に「在宅医療・介護連携」に活かしていくのでしょうか？

**市長** 在宅療養推進に向けた都の取り組みなど得られた情報を活用し、地区医師会との連携、事業推進に活かしていきます。

**大塚** 入院早期から退院後の在宅療養生活まで安心して送ることができるための「東京都退院支援マニュアル」が運用されています。  
医療関係者、地域包括支援センターや、自治体担当者に配布されていますが、活用されているのでしょうか？

**市長** 日常業務において、適宜各医療機関と連携を図って対応しています。

**大塚** 介護サービスを利用している市民の方から「自分が入院していた時に、隣の患者さんにはケアマネージャーが入院時、退院時にいらして病院側と調整していた。私には一度も来なかった」という声をいただいています。是非とも、このマニュアルを周知徹底して在宅療養を安心して送ることができるよう、努めていただきたい。

#### ・医療関係者との連携は・・・

**大塚** 在宅医療・介護連携を進めていくためには、医療関係者の協力、連携が絶対的に必要です。  
西多摩三師会、西多摩保健所との連携の現状と、今後について伺います。

**市長** 西多摩医師会主催の会議、羽村市医師会、歯科医師会、介護事業者が参加する会議に市も参加し、情報共有をし、連携を図っています。

**大塚** 現在、入院日数は18日以内とされていますが、2025年には9日という推計も出されています。9日という短い日数で退院して、在宅で患者をみていくということは家族としてとても不安があると考えます。

病床が確保されていれば病状が急変した時に入院させることができるので、家族介護者にとり安心感にもつながります。病床確保はどうなっているのでしょうか。

**担当部長** 平成28年4月に福生病院に地域包括ケア病棟が開設される予定です。  
7階に開設し、45床です。

## ・国が「取り組むべき事業」と示している事業への取り組みとは

- ① 地域の医療・介護の資源の調査と把握
- ② 地域の医療と介護関係者が参画する会議を開催し、課題の抽出と対応策の検討
- ③ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
- ④ 情報共有シート、地域連携パス等の活用による、医療・介護関係者間の情報共有の支援
- ⑤ 在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営
- ⑥ 医療・介護関係者の研修
- ⑦ 地域住民への普及啓発
- ⑧ 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携(同一の二次医療圏内)

これらを平成30年には羽村市が主体的になり、進めていく必要があるのです。

### 大塚 国が示している事業への取り組み状況は

**市長** 今年度中に「地域の医療・介護の資源の調査と把握」について、市内の医療機関や訪問看護ステーション等を対象とし、アンケート調査を実施し、現状把握を行います。

**大塚** 「地域住民への普及啓発」は他市では講演会など行っているようですが、羽村市でも開催できるのではないのでしょうか。

**担当部長** この事業への取り組みが始まったばかりなので、土台が固まった時点で市民の皆さまへの普及啓発を図っていきたいと考えています。

今回の質問で、羽村市は取り組みを始めたばかり……ということがわかりました。

現在、核家族化も進み、また子ども一人で親二人を介護する「シングル介護」も増えてきており、家族の介護力が弱ってきているのが現状です。在宅介護・医療の環境整備を整えているか、自治体の力が問われています。在宅介護を支える家族のためにも、羽村市にはしっかりと「在宅医療・介護連携事業」を進めていく責任が問われています。

大塚あかねは、羽村市の在宅医療・介護連携の取り組みについて、これからも目を光らせていきます！皆さまのお声をお聞かせください！

## 2、介護サービスを利用している方、家族の「声」を活かしていくために

**大塚** 介護サービスを利用している方、家族の方から「直接」感想や意見を聴き、事業に活かしていくべきではないですか？

**市長** 高齢者実態調査や、各種介護予防事業の参加者へのアンケートで事業に活かしています。

## 3、いざというときに「ひとり」でも困らないまちづくり

**大塚** 羽村市内には「一人暮らし高齢者」「一人暮らしの若い人」「ひとり親家庭」など様々な「ひとり」の方がいらっしゃいます。入院など不測の事態に陥ったときの支援についてどのように考えていますか？

**市長** 不測の事態で入院が必要になった時や、介護施設に入所する際は身元引受人がいらないから、という理由で拒むことができません。手術など同意者がたてられない場合も医師の判断で、必要な手術は行われていると承知しています。生活支援については生活支援サービスや、NPO法人などありますが、市としては様々な支援策についての情報提供など個々の状況に応じた支援につとめていきます。



## 福生病院に開設！

### 「地域包括ケア病棟」

地域包括ケア病棟とは・・・

一般の病棟の在院日数は現在、18日以内に制限されていますが、「地域包括ケア病棟」は在院日数を60日以内として、急性期（病気を発症し、急激に健康が失われ不健康となった状態）を経過した患者さん、及び、在宅で療養を行っている患者さんなどの受け入れ、並びに状態が安定した患者さんの在宅復帰支援等や医療を行っていく病棟です。

12月議会で大塚あかねは「在宅医療・介護」について一般質問を行い、その中の答弁で「来年4月を予定とし、福生病院7階病棟（45床）に地域包括ケア病棟が導入される。」ということをお知らせしました。

ではどのような方が対象となるか・・・いくつか例をお示しします。

- ①在宅で医療管理をしている患者さんを介護なさっている家族の事情によって一時的に介助ができなくなった場合の自宅療養患者の短期入院（おおよそ1週間）
- ②現在、福生病院に入院なさっていて、在宅に退院できるまでの慢性期（病状は比較的安定しているが治癒が困難な状態が続いている時期）、回復期（容態が危機状態から脱し、身体機能の回復を図る時期）にある患者
- ③他の急性期医療機関の一般病棟からの転院希望患者で、状態が安定していると考えられる患者
- ④介護老人保健施設、特別養護老人ホーム等、自宅療養中で積極的な治療はせず対処療法のみで入院する場合の患者
- ⑤ストーマケア（手術などによって腹壁につくられた排泄口）の自立等。

国は「在宅医療・介護」を進めています。在宅で介護をしていく家族の為にも「なにかあったとき」の為に病床や、施設の確保を行政にはしっかりと整備してほしいと強く望みます。

## 活動の記録②



10月27日  
柏市豊四季台団地で  
地域包括ケアシステム  
について視察



11月28日  
小規模多機能居宅介護施設  
「福ら笑」視察



12月6日  
ママパパ講座に参加  
講師の高祖常子さん



11月8日  
清瀬市の児童養護施設  
「子どもの家」を視察  
早川施設長と。



## 大塚あかね後援会 会員募集中です！！

皆様からのご支援(カンパ)をお願いしております。大塚あかねの政治活動全般に活用させていただきます。ご意見、ご要望も下記までご連絡くださいませ。

連絡先

〒205-0015 羽村市羽中 2-15-12

TEL 042-555-5338 FAX 042-555-5338

http://www.otsuka-akane.net E-mail : a.k.o@t-net.ne.jp **ブログ毎日更新中！**



毎週月曜日、羽村駅前にて  
広報活動を行っています。

★お知り合いのご紹介お願いいたします。